県感染症情報センター

麻しん予防は社会的責任

声なき感染症を知る ◆1◆

☑海外渡航者が起点
☑ワクチンが効果的

感染症を題材にした映画「アウトブレイク」（1995年、米国）では、未知のウイルスにどうすることもできない人間のさまが見事に表現され、大変な恐怖を感じたものでした。

感染症に対する有効な予防策の一つは、情報の収集と病原体の知識を得ることです。本連載は、国内外で注目される感染症の社会的話題を分かりやすく解説するとともに、県内の状況を示し、感染症に関する知識を深めてもらいたいと企画しました。あわせて、県内では現在どのような感染症が流行しているのかの情報を、毎週提供していきます。

筆者は、桜井市粟殿（おうどの）にある県保健研究センター内の「県感染症情報センター」に所属する研究員です。感染症情報センターは、「感染症法」に基づき情報発信の拠点として、すべての都道府県に設置されている機関です。

第1回は、昨年末から患者が急増している麻しん（はしか）についての話をします。

◇

WHO（世界保健機関）は2007年に、2012年までにアジア西太平洋地域から麻しんを排除する目標を定めました。これを受け厚生労働省は2008年に「麻しん排除計画」を策定し、特に10歳代の免疫強化のため、これまでのワクチン対象者（1期＝1歳まで、2期＝就学前まで）に加え、中学1年生（3期）と高校3年生（4期）の定期接種を実施してきました。

また同時に、正確に疾患を見分けるための検査診断を行ったことで、2012年には年間の患者数が283人となり、2008年の1万1013人から大きく減少し、効果を得ました。

▽輸入症例による国内流行

ところが、昨年11月末ごろから感染例が増加しはじめ、今年3月末には、昨年の年間患者数に匹敵する270人超えの状況に至っています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの2月末までの集計によりますと、感染例の3割強は海外の感染地域への渡航者で、それが起点となり、若者の多い首都圏と地方都市（京都府、大阪府、愛知県など）で国内流行しているのです。

▽集団免疫

麻しんは年齢にかかわらず、命にかかわる疾患です。ウイルスは感染力が非常に強く1人の患者から、周囲15人前後に感染させると言われています。これは個人被害にとどまらず、社会的にも大きな損失が生じます。

感染地域への渡航や国内流行の予防には、ワクチン接種による免疫の獲得が効果的で、国民の95％以上が免疫を持つ集団免疫は、排除状態を維持することにつながります。

県のワクチン接種率（表）は1期、2期ともに全国平均より低く、感染予備軍を蓄積している状態です。

ワクチンを受けたことのない人はもちろん、1回しか受けたことがない人も、必要回数である2回のワクチン接種を受けることは、社会的責任と言えます。

＝第2木曜日掲載＝

2012年度の奈良県の麻しんワクチン接種率

	奈良県	全国平均
第1期	95.5%	97.5%
第2期	91.1%	93.7%
第3期	85.3%	88.8%
第4期	85.5%	83.2%